

事例2「ブックトーク」——「天気を予想する」(五年と関連させて)

長野県駒ヶ根市立赤穂南小学校
学校司書 米山篤美^{よね やま} × 五年生(35名)

指導形態

学校司書によるブックトーク。学級担任(司書教諭)はT2として支援に入る。
本時は、「天気を予想する」(「国語」五年p138)の二時である。科学的な読み物に興味をもち、写真や絵を使った説明のしかたに着目する。

Y1 ブックトークを始めます



学校司書・米山先生によるブックトークの時間の始まりです。これから紹介する本がどんなジャンルのものなのか、子どもたちと対話しながら伝えていきます。

司書 武田康男さんって知っている？

児童 知ってる！ 国語の教材の筆者でしょ？

司書 そうそう！ よく分かっているね。

児童 さつき、二時間目に勉強したよ。

司書 今日は、その武田さんの本を何冊か紹介するね。

国語教材「天気を予想する」は、教時間前に学習したばかりなので、子どもたちは筆者の名前をよく覚えていました。タイミングを捉えて、ブックトークを行います。

Y2 筆者の武田さんって、こんなことをしている人



司書 これは、台風が過ぎた後の東京お台場の写真です。台風が過ぎた後って、こういう空になるんだよ。

児童 台風の後って、晴れるんだよね。

司書 そうだよ。これは、『すごい空の見つけかた』という本で、どんなときにどんな空が見られるのかということ、写真と文章で教えてくれます。

司書 武田さんって、南極にも行ったことがあるんだよ。

児童 えっ！ 冒険家なの？

司書 観測隊員として、一年間南極に行っていたそうです。この本『南極大陸のふしぎ』では、そのときの様子を、たくさんの写真と文章で紹介しています。

Y3 紹介した本は、横のラックに



武田さんの本は、全部で四冊紹介しました。紹介した本は横のラックに入れ、表紙が見えるように置いておきます。ブックトークの後の自由読書の時間に、子どもたちが手に取りやすくなるようにしておきます。

『ブックトークで取り上げた本』

『地球は本当に丸いのか？』

(章思社／二〇一七年)

『すごい空の見つけかた』

(章思社／二〇〇九年)

『南極大陸のふしぎ』

(誠文堂新光社／二〇一三年)

『雲と天気大辞典』

(あかね書房／二〇一六年)

Y4 地域・学校の特性を考慮して選んだ本も

次に、地域・学校の特性を考慮して選んだ科学読み物の紹介です。

司書 最近、あちこちで、きのこを見かけるようになったね。

児童 ああ、見るね、見るね。

司書 今日は、きのこに関する本も紹介するね。

本学級の子どもたちは、前年度まで森での活動を活発に行っていました。また季節がら、学区域では野生のきのこを見かけます。

『不思議の国のアリス』で、アリスの体の大きさを変えたテングタケの話や、子どもたちに人気のゲームソフト「マリオシ

リーズ」に出てくるきのこのことなど、米山先生は子どもたちを引きつけるエピソードを巧みに盛り込みながら、本を紹介しています。

司書 学校の近くで、物語やゲームに出てくるきのこを見かけても、毒があるかもしれないのでむやみに触ったり食べたりしてはいけませんよ。

最後に、きのこに関する注意点にも触れて、ブックトークを終えました。



▲自由読書の時間になると、多くの子どもたちが学校司書・米山先生のもとへ。

赤穂南小学校は、全学級が週に1時間、図書館の時間を設けています。主に、国語の時間から捻出しており、今回のようなブックトークのほか、読み聞かせ、本の貸し出しなどを行います。

学校司書の米山先生は、市から派遣されている常勤職員です。「忙しい先生方とはなかなか打ち合わせをする時間がありませんので、年間指導計画を頭に入れておいて、休み時間に教室まで行って話をするなど、積極的かつこまめにコミュニケーションをとるよう心がけています」とのこと。司書教諭の平澤先生によると、「先生方や子どもたちからの信頼は厚く、赤穂南小学校の学校図書館に欠かせない存在」なのだそう。